

授業改善推進プラン<生活科>

生活科における昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図鑑や本で知っていることを生かして活動できる児童が増えた。また、経験を活かして観察をしたり遊んだりすることができる児童が増えた。 <p>〈思考力、判断力、表現力等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視点を与えることで、より詳しく観察をすることができる児童が多くなった。 <p>〈学びに向かう力、人間性等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しいことを知ろうという意欲が高い児童が多く、興味をもって活動できている。 	<p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生き物に触れたり植物を育てたりした経験が少ない児童は、活動で戸惑うことがある。 <p>〈思考力、判断力、表現力等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活経験に差があるため、植物や生き物の生育環境をよりよくするためにどんな工夫が必要か、十分に考え実行することが難しい児童がいる。 <p>〈学びに向かう力、人間性等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物や生き物に対して親しみをもって関わるることができるものの、関心や意欲を持続させることが難しい。

<具体的な授業改善策>

<p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察カードを見て植物成長の記録などを振り返る時間をつくる。 ○互いの発見や疑問を発信する場を作り、気づきの幅を広げる。 <p>〈思考力、判断力、表現力等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察するときどのようなことが気づきとなるのか、色、形、大きさ、数などの視点を事前に示す。また、見た目だけでなく、触った感じや匂いなど様々な感覚を使って観察するように促す。 ○児童の発言を教師がまとめて掲示したりするなど、発見を記録として積み重ねる工夫する。 ○試行錯誤の時間を確保して改善点を考えたり、再度活動する時間を設けたりする。 ○児童の思いや疑問が行動に繋がるように、関連の本等を用意しておく。 <p>〈学びに向かう力、人間性等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が「自分のもの」と愛着をもてるよう、水やりやエサやりなどを通して日常的に植物や生き物にかかわる環境を設定する。 ○見つけた成長や変化を交流できる場を設定することで、継続して観察することから得られる発見の喜びを共有させる。 ○学級全体やグループ、ペア等で自分の思いや考えを紹介したり交流したりする場を設けるようにし、友達との関わりから活動意欲を高め、気づきを深められるようにする。

授業改善推進プラン<生活科>

分析 ○…良い点 黒…改善点

<知識及び技能>

○図鑑や本で知っていることを生かして活動できる児童がいる。また、経験を活かして観察をしたり遊んだりすることができる児童がいる。

●生き物に触れたり植物を育てたりした経験が少ない児童は、活動で戸惑うことがある。

<思考力、判断力、表現力等>

○視点を与えることで、より詳しく観察をすることができる児童が多い。

●生活経験に差があるため、植物や生き物の生育環境をよりよくするためにどんな工夫が必要か、十分に考え実行することが難しい児童がいる。

<学びに向かう力、人間性等>

○新しいことを知ろうという意欲が高い児童が多く、興味をもって活動できる。

●植物や生き物に対して親しみをもって関わるができるものの、関心や意欲を持続させることが難しい。

課題

<知識及び技能>

●学級の児童同士で発見や気づきを交流させる場の設定。

<思考力、判断力、表現力等>

●気付いたことを表現する力や生育環境をよりよくするための思考力の育成。

<学びに向かう力、人間性等>

●自然にすすんで関わろうとする態度の育成。

●児童の主体的な活動になるような学習計画の設定。

●自分の思いや観察から気付いたことなどを進んで話したり説明したりする態度の育成。

具体的な授業改善策

<知識及び技能>

○観察カードを見て植物成長の記録などを振り返る時間をつくったりする。

○互いの発見や疑問を発信する場を作り、気づきの幅を広げる。

<思考力、判断力、表現力等>

○観察するときどのようなことが気づきとなるのか、色、形、大きさ、数などの視点を事前に示す。

また、見た目だけでなく、触った感じや匂いなど様々な感覚を使って観察するように促す。

○児童の発言を教師がまとめて掲示したりするなど、発見を記録として留めておく工夫する。

○試行錯誤の時間を確保して改善点を考えたり、もう1度やってみる時間を設けたりする。

○児童の思いや疑問が行動に繋がるように、関連の本等を用意しておく。

<学びに向かう力、人間性等>

○児童が「自分のもの」と愛着をもてるよう、水やりやエサやりなどを通して日常的に植物や生き物にかかわる環境を設定する。

○見つけた成長や変化を交流できる場を設定することで、継続して観察することから得られる発見の喜びを共有させる。

○学級全体やグループ、ペア等で自分の思いや考えを紹介したり交流したりする場を設けるようにし、友達との関わりから活動意欲や内容が高められるようにする。